

『一日』 作：ポチ子

『一日』 作：ポチ子

やっと、今日が終わってくれる。

夜になると、ひどく安心する。

怒る上司も、

気を遣う友人も、

知らない他人も、

誰もいない静かな部屋で、

布団に寝転ぶ瞬間が好きだ。

ずっとこうしていたい。

でも、夜は永遠には続かない。

『一日』 作：ポチ子

明日始まる今日のために、

風呂に入って、

歯を磨いて、

着る服を準備して、

カバンに荷物を詰め込む。

それが全部終わったら、

また布団に寝転んで、

目を瞑る。

さっきまで私を包んでいた布団は、

酷く冷たくなっていた。

『一日』 作：ポチ子

ああ、もうしばらくしたら、

また、嫌いな今日が来る。

— 終わり —